

地域公共交通における個別課題

調査項目	個別課題等		地域公共交通の集約課題			
			①	②	③	④
上位関連計画	1	第6次犬山市総合計画では、公共交通に関する取組みの方向性として、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成や利用しやすい環境整備を位置づけている。	●	●	●	●
	2	犬山市都市計画マスタープランでは、交通について、「移動しやすいネットワークを構築する」という目標を掲げ、鉄道の利用促進やニーズに配慮した公共交通ネットワークの形成、駅周辺の駐車場・駐輪場整備を整備方針としている。	●	●	●	●
	3	犬山市立地適正化計画では、公共交通に関して、「公共交通が利用しやすく、安心して外出できるまち」を方針としている。	●	●	●	●
公共交通を取り巻く社会情勢	4	活性化再生法の一部改正やあいち交通ビジョンにおいて、地域の輸送資源を総動員した持続可能な交通ネットワークの構築が求められている。	●			
	5	先進国を含む国際社会全体の開発目標として、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の17のゴール（目標）と169のターゲットが掲げられ、様々な取組が進められている。				●
	6	Society5.0を実現するためにDXの推進が求められており、MaaS（Mobility as a Service）、AIを活用したデマンド交通など新たな技術を活用した取組が進められている。			●	●
	7	新型コロナウイルスの感染拡大によって民間交通事業者は厳しい状況にあり、with コロナにおける公共交通サービスのあり方や、減少した利用者を回復する施策展開が必要。				●
	8	自動車運転の職業における有効求人倍率は全職業の平均に対して高く、路線バスや一般タクシーを含めた公共交通を担う交通事業者において、運転手が不足している。				●
	9	高齢者の免許返納者が増加しており、免許返納後の移動手段として公共交通の需要が高まっている。	●		●	
	10	リニア中央新幹線は広域交通ネットワークを形成し、愛知県の各地域において、社会・経済に大きな波及的効果を与えると考えられる。	●			
犬山市の現状	11	本市の人口は平成22年をピークに減少へ転じ、今後も減少傾向は継続することが予測されている。	●	●	●	●
	12	年齢3区分別の人口は、特に高齢者人口の増加が顕著で、高齢化が更に進展する見込みにある。			●	●
	13	市内には7つの鉄道駅や岐阜バス、わん丸君バス、タクシー及び周辺市町のコミュニティバス等が運行されている。	●	●		
	14	名鉄電車、岐阜バス及びわん丸君バスの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度以降大幅に減少している。	●			●
	15	市内の公共交通による人口カバー率は91.3%を有するものの、市街化調整区域の集落地等では交通空白地域が残存する。			●	
	16	本市の代表交通手段別構成は、自動車が約7割と増加傾向にある。		●		●
	17	交通事業者ヒアリングでは、「ダイヤが合わず乗継ができない」「ダイヤ設定が短い」といった乗り継ぎの問題が挙げられている。		●		
	18	交通事業者ヒアリングでは、バス停位置と交差点の近接性による交通安全上の問題や、交通渋滞による遅延発生などが挙げられてる。	●			●

調査項目	個別課題等		地域公共交通の集約課題			
			①	②	③	④
市民アンケート	19	自動車を週に2,3回以上運転する人は8割を占めている。		●		●
	20	80歳頃までに運転免許証を返納しようと思う人は約5割で、免許返納後に利用したい交通手段は「わん丸君バス」とする人が約5割を占める。			●	●
	21	普段の外出の目的地は、市内が5割を占め、目的施設は「カネスエ」「ヨシヅヤ」「ナフコ」等の商業施設が多く挙げられている。また、市外では「小牧市」「扶桑町」「大口町」等の周辺市町への外出が多いなど、移動需要は多様化している。	●		●	
	22	「市内を名鉄電車やわん丸君バスが走っていること」は各小学校区とも9割程度が認知する一方、「バスのダイヤやルート」、「行くことができる施設」の認知度は概ね1割程度に留まっている。				●
	23	サービスを維持・拡充していく際に重要な項目として、名鉄電車は「通勤・通学するための交通手段」、岐阜バス・わん丸君バス・タクシーは「通院・買い物するための交通手段」が高い。	●		●	
	24	公共交通を利用して行きたい施設として、目的地では「市内」が約3割、目的施設では「犬山駅」「ヨシヅヤ」「総合犬山中央病院」などの生活利便施設や「博物館明治村」「リトルワールド」「犬山城」などの観光施設が多く挙げられる。	●			●
	25	運賃や税負担への考え方は「税金・利用者の負担は現状のまま、サービスも現状維持すべき」が約3割存在する一方、「利用者の負担を増やして、サービスを向上させるべき」も約2割存在している。支払ってもよい運賃は「200円」が約5割を占める一方、「300円」が約3割存在している。				●
	26	デマンド型交通の利用意向は「利用したい」が各小学校区とも約2~4割を占める。また、求める機能としては「家のすぐそばまで行ってくれること」「目的地のすぐそばまで行ってくれること」が概ね各小学校区とも上位を占める。			●	●
	27	公共交通の維持や利用促進に対する取組みについて、「地域企業の協賛金や広告費などを募り、収入を増やす」「公共交通を積極的に利用する」が各小学校区とも上位を占める。				●
バス利用実態調査	28	わん丸君の各コースとも、「65歳以上の高齢者」が約7~8割を占め、「買物」や「通院・お見舞い」目的の利用が多い。			●	●
	29	善師野・塔野地線では、「週に数日以上利用する」人が8割強を占める一方、楽田西部線では約3割に留まっている。			●	
	30	わん丸君バス相互の乗継は、各コースとも約1~3割程度、隣接市町のコミュニティバスとの乗継は楽田西部線、内田線、入鹿・羽黒線で約1割未満ではあるが存在している。	●	●		
	31	バス停間ODは、犬山駅や犬山中央病院を起終点とした利用が多い。		●		
	32	便別利用者数は午前9時や11時前後の便の利用が多い。			●	